

地区の安全を守る「ふせぎ」

笠幡にある芳地戸地区では、毎年春の彼岸に「ふせぎ」と呼ばれる行事を行っています。この行事は、享保6年(1721)に始まったと伝えられ「芳地戸のふせぎ」の名で市の無形民俗文化財に指定されています。

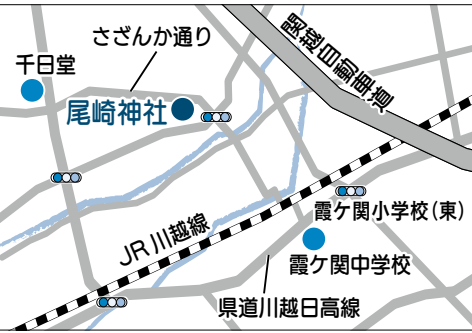
「ふせぎ」とは、名前のとおり「防ぐ」ことから来ています。疫病や悪い出来事は、道を通って入ってくるという考えから、村に入る道の境にお札などを置き、悪いことが起こるのを防ごうとしたことが、「ふせぎ」の始まりとされています。

「ふせぎ」当日は、午前中に尾崎神社(笠幡)の境内でわらや櫛などを使い、みこしを作ったり、篠竹の先端にお札や輪飾りを挟み込んだ辻札を作ったりします。午後は太鼓を先頭に、作った辻札を持った子どもたちが「よーいどまだまだ」の掛け声を出しながら家々を回り、最後に、災いが入らないよう、かつての村境に辻札を立てます。

地区の人々にとって、なくてはならない伝統行事。今年は3月21日(祝)に行われます。



白い札が付いている竹の棒が辻札



人気のパクチー。そんなパクチーをはじめとした多くのハーブやレタスを、太陽光も土も使わない特別な方法で生産しているのが、植物工場りっせん(鴨田)です。

外気を完全に遮断した工場内は、温度・湿度から二酸化炭素の濃度まで、すべて自動で管理されています。植物たちは、太陽光の代わりに蛍光灯の光を浴び、土の代わりに栄養素を含んだ水中に根を伸ばします。農薬は一切使用していません。パクチーは、薬味だけでなく、サラダやサン

パクチー

タイ料理をはじめ、アジアフードの引き立て役として近年

ドイツ、生春巻きなど、食べ方はさまざまです。「袋を開けたら、そのまま洗わずに食べることができます。柔らかい、生のままのおいしさを味わってほしいです」と工場長の網代好美さん。将来的には、自家製のハーブを使って、クッキーやスムージーの生産にも取り組みたいと、意気込みを語ってくれました。りっせんのパクチーやその他ハーブ、レタスは、市内の直売所で購入できます。香り高いパクチーを、ぜひ味わってみてください。



定期的に育ち具合をチェック

この時期に市内の直売所などで購入できる主な川越産野菜
キャベツ、菜の花、ブロッコリー、ホウレンソウ、コマツナ、ニンジン、トマト、サトイモ、キュウリ、イチゴ、ネギ

川越の春のイベントといえ、小江戸川越春まつり(2・3ページ参照)。3月31日(土)に開催されるオープニングイベントでは、高校生によるマーチングバンドや川越鷺組合によるはしご乗りなどの催しが行われます。桜づくみに春まつり。足を運んでみてはいかがでしょうか。

桜といえ、川沿いに植栽した、「桜づつみ」があることを知っていますか(4ページ参照)。川の流れを感じながら、桜の観賞を楽しめる桜づつみは、散歩コースに最適です。



気が温上がり、そろそろ桜が咲き始める時季ですね。小学生のころ、ピンク色の花が咲いているのを見て、「桜が咲いた!」と思ったら、梅の花だったという経験を思い出します。

編集後記

どんぐり

広報川越1410

■発行日/平成30年3月10日(毎月10日・25日発行)
■発行/川越市 〒350-8601埼玉県川越市元町1丁目3-1 <http://www.city.kawagoe.saitama.jp/>
市役所代表 ☎049-224-8811 ☎049-225-2171
■編集/広報室

「声の広報川越(CD)」 「点字広報川越」を作成しています。ご希望の方は、広報室までご相談ください。
☎224-5495 ☎225-2171

私的利用の範囲を除き、記事や写真の無断転載を禁止します。

この印刷物は、グリーン購入法に適合する紙を使用し、印刷用の紙へ、リサイクルできます。 リサイクル適性(A)

Fontworks
UDFont